

平和な世界願い教材

きょうついでく @東京

米国在住中に起きた9・11同時多発テロで人生観が変わったという日本人女性
が、世界平和を目指して「グローバル教育」の教材をつくり、普及活動を始めた。タイトルは「地球村への10のステップ」。3000年の時間と世界空間を旅しながら、地球村の市民に成長していく内容だ。「世界中の子どもに学んでもらい、テロや戦争のない世の中になってほしい」と願う。(小石勝朗)

異文化理解促す塾運営
渥美さん、普及活動

「地球村」の市民に 成長してゆく物語

4月下旬、新宿区で教材の
実績があった。この日の生徒
は外国人を含む6〜15歳の25
人。教材を開発した渥美育子
さん(67)がサッカーボールを

手に語り始めた。
「学校にも行けず、一日中
ボールを縫っている子どももた
ちがいたんだよ」。南アジア
の児童労働のことから、その
文化を体感していく。



「地球村への10のステップ」を子ども
たちに教える渥美育子さん＝新宿区

とくに重視しているのが

「三つの行動律」だ。リーガ
ル(法)、モラル(道徳)、
シリヤス(宗教)の各規範
のうち、どれが一番強く社会
のルールに影響するかによっ
て色分けした「文化の世界地
図」が登載する。
たとえば、10代の子どもが

商店から宝石箱を勝手に持ち
出した場合。法の規範が強
い国では犯罪として訴えら
れ、道徳規範の強い国では、
親が責任を問われることなど
を説明する。文化が違っても
ルールや価値観が違つてを知

り、行動律の異なる人たちと
仲良くしていく方法を考え
る。
最後は、子どもサミットを
開き、世界中の子どもが友だ
ちになれる新しい地球村をデ
ザインする。

「9・11テロ」機に開発

青山学院大助教授(比較文
化)だった渥美さんは、79年
に米ハーバード大の客員研究
員になった。日本式経営や日
本とのビジネスのやり方など
をテーマにした「異文化マネ
ジメント研修」が企業の反響
を呼び、83年に米国に会社を
設立した。90年代からは、経
営者らに経済のグローバル化
に対応した戦略づくりや人材
育成を教えてきた。

引先にいた。娘の夫は乗っ取
られた飛行機が突入したビル
の近くで働き、娘は出張で空
港にいた。無事とわかった後
も「次はどが危ない」とい
う情報が飛び交い、「殺され
るかもしれない」と恐怖に襲
われた。
ビジネスが手につかない。
「グローバルイズムの最先端」
の自負は粉々に砕け散った。
「いま何かしなければ」。

「9・11」の衝撃は7月
2日、「グローバル教育は、
日本を変えられるか」と題
した講演会を港区の赤坂区民
センターで開く。コンピュー
ター基本ソフト(「トロ」)を
開発した坂村健一、東大大学院
教授、渥美さんの講演やパネ

01年9月に同時多発テロが
起きた時、ニューヨークの取

外国人の友人ら6人で話し合
い、テロリストになる前のも

と早い段階の教育が大切だ
という結論に至った。培った
ノウハウを活用し、2年がか
りで生まれたのが「地球村へ
の10のステップ」だ。
渥美さんは1年前に帰国
し、教育関係者や企業経営者
らとグローバルみらい塾(港
区)をつくった。塾長として
教材の普及・販売やインスト
ラクターの育成に取り組み。
「世界を理解し、ほかの国の
よさも採り入れながら、改め
て世界に発信していくような
力を身につけてほしい」

ル討論がある。午前10時〜午
後3時半。2千円。予約・問
い合わせは同塾(03・358
0・1100)。